



ジェネリックのお話



テレビや新聞などでジェネリック医薬品の広告を見たり聞いたりしませんか？

「お薬代が安くなります」などと宣伝が流れているのがジェネリック医薬品です。

ジェネリック医薬品とは、どういう薬なのでしょう。

まず、ジェネリック医薬品は医師が処方する薬であって、ドラッグストアやコンビニなどで買える大衆薬とは違います。ジェネリック医薬品は後発医薬品とも言います。

薬の名前には、「商品名」の他に、有効成分名としての「一般名：generic name ジェネリックネーム」があります。例えば、胃潰瘍の薬で知られているガスターの一般名は「ファモチジン」ですが、ファモチジンという一般名を持つ医薬品はプロスター M などほかにも何種類もあります。後から作られたこのようなお薬を後発医薬品、つまり、ジェネリック医薬品と言います。

では、ジェネリック医薬品はなぜ新薬より安いのでしょうか？

新薬とは、最初に開発され発売された薬のことを言います。新薬は新しく開発された成分であるため、いろいろな試験をして薬としての有効性や安全性を確認してから世の中に出てきます。ここでのいろいろな試験とは、

- ①薬として考えられる化学物質の化学的な性質や構造を調べること
- ②動物などを使用して薬としての効果や毒性などを調べること

③計画的に人に使用してその投与量、投与方法、安全性、有効性を調べることを指します。

新薬の開発には、10～20年にもわたる歳月と数百億円もの投資が必要と言われています。このため、**新薬には、長年の商品開発の対価として、およそ20年の専売特許が与えられ、類似薬が作られないように法律で保護されています。**

一方、新薬と同じ成分を使って製造されるジェネリック医薬品の場合、既に新薬で有効性や安全性が色々な試験で確かめられているため、**開発に要する時間も費用も少なく済みます。ですから、ジェネリック医薬品の値段は新薬より安く設定されるのです。**

このようにお話しすると、医療費の負担軽減などジェネリック医薬品の良い点が目立ちますが、メリットばかりではありません。新薬と成分が同一であっても製造工程が同一ではありませんので、添加物が異なっているなど**新薬とジェネリック医薬品は全く同一のものとは言い切れないのです。**

もちろん、**医療機関がジェネリック医薬品を上手に使い、有効でかつ安全な薬物治療を提供し、患者様の経済的負担を軽減し医療費を節約することは重要です。**

これらのことをよくふまえ、患者様の利益を考慮しつつ医療側で協議をしながら、導入していけたらと考えています。（薬剤科長 杉田 卓）

12月の糖尿病教室は、お休みにさせていただきます。

医療福祉相談室
たより



「ちいさなちいさな水たまり」

さわきょうこ／文芸社

今月のイチオシ

医療福祉相談室には小さな図書コーナーがあります。子どもの病気（難病・発達障害・こころの病気）に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。

私たちは1人1人が一所懸命生きていて、1人1人違って、1人1人大きな存在。そして、当然のことだけど、もう一つの事実・・・「私たちはホモ・サピエンス」。宇宙に生まれた小さな生命体にすぎないということ。みんなつながっているということ。人の手の温かさと、宇宙のりんとした空気を同時に感じるそんな素敵な詩集です。

日々時間に追われるあなた、たおやかで力強い詩の世界に浸り、新しい年を迎える心の準備をしませんか？
（ソーシャルワーカー 高村 純子）